

NOBODY'S TOWN

真っ昼間から一本目
散歩と銘打って徘徊
一見すると誰もいない
シャッターだらけの商店街
想像したい
おばあちゃんと孫が手を繋ぐ後ろ姿
アーケードから漏れた光
照らされ遠くへ消えて行く

誰もいないこの町には
何があった？何を捨てた？
この町では何が正義だった？
生きてく為、何を諦めた？

先天的に感じる喜怒哀楽の息吹
そろそろイマジネーションが止まらない

託した未来が今、目の前で広がる
歴史の中を歩く
教科書には載らない
生活を 暮らしを 営みを 毎日を

生きてる心地を実感したい